

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 武蔵野の森総合スポーツ施設実施段階環境影響評価書案審査意見書

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会武蔵野の森総合スポーツ施設実施段階環境影響評価書案」(以下「評価書案」という。)について審査した結果、「2020年東京オリンピック・パラリンピック環境アセスメント指針(実施段階環境アセスメント及びフォローアップ編)」(25環都環第505号 局長決定)に規定する意見は、下記のとおりである。

東京都環境局長
遠藤 雅彦

記

第1 対象事業等

1 実施者の名称及び所在地

名称：東京都

代表者：知事 舛添 要一

所在地：東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

2 対象事業の名称

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会
武蔵野の森総合スポーツ施設

3 対象事業の所在地

東京都調布市飛田給一丁目1番41号ほか

第2 意見

評価書案は、おおむね「2020年東京オリンピック・パラリンピック環境アセスメント指針（実施段階環境アセスメント及びフォローアップ編）」に従って作成されたものであると認められる。

なお、環境影響評価書を作成するに当たっては、次に指摘する事項について留意し、その記載内容が充実するとともに一層理解しやすいものとなるよう努めるべきである。

1 総括的事項

武蔵野の森総合スポーツ施設は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の招致決定前から建設が計画され、平成26年2月に着工したことから工事中の影響については、評価書案において予測評価は行わず、フォローアップで確認することとしている。

については、工事中の環境保全措置に留意するとともに、適切なフォローアップを実施されたい。

また、評価書案がより一層分かりやすいものとなるよう、現地調査結果の詳細、予測の基礎となる条件、算出過程等、基礎情報について整理されたい。

2 項目別事項

(1)【主要環境(大気等)】

(大気等)

現地調査結果の詳細、排出ガスの変換式の詳細等、予測の基礎となる条件及び算出過程について明らかにすること。

(2)【生態系(生物の生育・生息基盤、水循環、生物・生態系、緑)】

(生物の生育・生息基盤)

① 地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽し、コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としていることから、この植栽計画について明らかにすること。

また、隣接する緑地等の賦存地と一体となった生物の生育・生息基盤が形成されることとしていることから、隣接する緑地等との関係についても具体的に説明すること。

② 人工地盤植栽を行うことから、生物の生育・生息基盤が維持されるよう管理計画を定めて適切に管理すること。

(水循環)

地下水浸透能について雨水流出抑制計画書を引用しているが計画地には緑地も存在していることから、緑地についても評価すること。

また、地下水涵養能が維持されるよう雨水浸透施設を適切に管理すること。

(生物・生態系)

調査範囲が武蔵野の森総合スポーツ施設・東京スタジアム会場エリアと武蔵野の森公園会場エリアであることから、エリアごとの調査結果を明らかにし、予測・評価すること。

(緑)

計画地内に新たな憩いの場を提供し、周辺の緑への動線が創出され、来訪者に緑と触れ合う場所を提供できるとしていることから、計画地周辺の緑化計画も含めて図などを用いて具体的に示すこと。

(3) 【生活環境(日影)】

(日影)

日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等に日影線がかかることから、天空写真を用いて日影時間の変化について具体的に示すとともに、冬至日以外の日の日影についても予測・評価すること。

(4) 【アメニティ・文化(景観、自然との触れ合い活動の場、歩行者空間の快適性)】

(景観)

自然豊かな環境が引き立つよう「素材色」と「ニュートラル色」を基本とした色彩とする計画としていることから、色彩計画の内容について具体的に記述すること。

(自然との触れ合い活動の場)

周辺への自然との触れ合い活動の場までの利用経路が充実することとしていることから、この利用経路について、計画地内の動線計画も含めて明らかにすること。

(歩行者空間の快適性)

- ① 暑さ指数 (WBGT) について、予測条件及び算出過程を明らかにすること。
- ② 日影のない直射日光下では熱中症が全ての生活活動でおこる危険性がある「危険」レベルになると予測されていることから、歩行者空間の暑さ対策により一層努めること。

(5)【資源・廃棄物(水利用、廃棄物)】

(水利用)

水利用計画について雨水と中水の用途別利用量等の詳細を明らかにすること。

(廃棄物)

設備等の持続的稼働における廃棄物の予測結果について、廃棄物の種類ごとに、排出量、再資源化量及び再資源化率を分かりやすく記述すること。

また、目標とする再資源化率を「調布市一般廃棄物処理基本計画」から47%と設定しているが、当該施設はオリンピック・パラリンピックレガシーとなる施設であることから、より高い目標値を検討すること。

(6)【温室効果ガス(温室効果ガス、エネルギー)】

(温室効果ガス)

予測の根拠となる類似施設の実績について、当該施設の改修前の実績値を用いていることから、改修後の実績値を用いて予測すること。

(エネルギー)

予測に用いた類似施設の実績値が、建築物エネルギー消費量調査報告におけるスポーツ施設のエネルギー原単位と比較して大きいことから、より一層のエネルギー使用量の削減に努めること。

(温室効果ガス・エネルギー 共通)

コージェネレーションシステム等の導入により温室効果ガスの排出量及びエネルギーの使用量が削減されると予測していることから、それぞれの設備の規模を具体的に記述すること。

(7)【土地利用(土地利用)】

(土地利用)

事業の実施に伴い計画地の土地利用は、全てスポーツ・興業施設となることから、現況と将来の土地利用状況の変化について具体的に図示すること。

(8)【安全・衛生・安心(安全、消防・防災)】

(安全)

当該施設はオリンピック・パラリンピックレガシーとなる施設であることから、高齢者や障害者を含むすべての人が安全かつ円滑に施設を利用できるよう、より一層努めること。

(消防・防災)

避難場所である「調布基地跡地運動広場及び大沢総合グラウンド一部」へ容易に避難できる経路が確保されている計画としていることから、この避難経路について図などを用いて具体的に示すこと。

(9)【交通(交通安全)】

(交通安全)

計画地に隣接して大規模施設が存在することから、周辺地域の施設管理者等と十分に連携を図り、より一層の交通安全の確保に努めること。